第五巻

まおゆう

Archenemy and Hero 魔王勇者

—「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」—

漫画 石田あきら 原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雲之承・toi8

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る?」

第五巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare
漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉雲之承・toi8

KCA264-8
角川書店

9784041205181

ISBN978-4-04-120518-1
C0979 ¥580E

1920979005808

定価:本体580円(税別) 発行:角川書店

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」
第五巻

まおゆう 魔王勇者

Archenemy and Hero 魔王勇者

——「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」——

第五巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉猫之丞・toi8

Kadokawa Comics A

Kadokawa Comics A

まおゆう 魔王勇者 「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」 第五巻

Comic Ishida Akira
Author Touno Mamare
漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉猫之丞・toi8

KCA264-8
角川書店

まおゆう
魔王勇者
第十七話
お嬢様ー…
お嬢様～
……ん？

Archenemy and Hero
17th chapter
第十七話
これは我ら愚かしい人間の戦だ

まおゆう
魔王勇者

第五巻

漫画 石田あきら
原作 橙乃ままれ
キャラクター原案 水玉螢之丞・toi8

第十七話 Archenemy and Hero 17th chapter 001
これは我ら愚かしい人間の戦だ

第十八話 Archenemy and Hero 18th chapter 063
勇者が、必要

第十九話 Archenemy and Hero 19th chapter 113
私が商人だからです

まおゆう魔王勇者

「この我のものとなれ、勇者よ」「断る!」

Archenemy and Hero

第五巻

漫画原作
石田あきら 橙乃ままれ
キャラクター原案
水玉蟹之丞・toi8

コラムページ
竹之内大輔、大野将平（レッカ社）
野村昌隆

まおゆう 第四巻のあらすじ

Lectures on Archenemy and Hero
Outline of volume.4

人類と魔族の争いに真の終焉をもたらすため、手を結ぶことになった「魔王」と「勇者」。人間界の「冬越し村」に拠点を定めた魔王は「紅の学士」を名乗り、馬鈴薯や四輪作、羅針盤などといった、新たな知識や技術の普及に努めつつ、人材の育成を進めていった。

魔王がもたらした知識や技術は、その後「南部諸王国」に広く浸透し、人々の生活は改善。さらに「第二次極光島奪還作戦」を経て、ながらく「中央」に従属してきた南部諸王国に自立の光が差しつつあった。

しかし、こうした状況を快く思わない「聖王国」と「中央聖教会」は、紅の学士を異端であると弾劾し、審問にかけようとする。しかし、その時魔王は魔界の「冥府宮」へと出向いており不在。やむなく、留守を預っていた「メイド姉」が魔法の指輪で姿を変え、異端審問の場に立つことになる。

多くの民衆の眼前で、苛烈な仕打ちを受けるメイド姉だったが、しかし彼女は静かに語り始めた。

「私は農奴の子として生まれました。――しかし、私は魂をもつ人間です」

彼女の言葉は、その場に居合わせた人々の心に強く響き、冬寂王は紅の学士の保護を宣言。結果、南部諸王国は「三国通商同盟」を締結して中央と訣別し、「農奴の解放」「湖畔修道会の国教化」など独自の政策を打ち立てる。さらに「活版印刷」や「吟遊詩人」を使った勧誘もあり、中央から南部へと人々の流入が進み、南部諸王国は国力を増しつつあった。

時を同じくして、「同盟」の幹部である「青年商人」は、南部と中央の対立と、それを構成する要素を見抜いて行動を開始する。それは「小麦の買い占め」。それにより、中央での物価は急激に上昇し始め、民衆の生活は困窮を極めるようになる。さらに、その影響は南部諸王国にも波及しつつあったが、「商人子弟」の提言による「関税の導入」などによって事なきを得る。

そしてその頃、青年商人のもとを訪れていたのは、魔族の「火竜公女」であった――。

まおゆう人物紹介

Lectures on Archenemy and Hero
Character Profile

魔王

魔族の王。未だ見ぬものを求め、真の意味で戦争を終わらせるため、豊富な知識を武器に行動を開始した。現在はとある事情から魔界に戻っている。

メイド長

魔王が幼いころから世話をしている側近で、「メイド道」を究めようと精進している。現在は魔王に連れ添って魔界に滞在中。

青年商人

人間界最大の経済団体「同盟」の幹部。羅針盤をきっかけに出会った魔王に惚れ込み、大きな影響を受け、独自の行動をとり始める。

火竜公女

火竜大公の娘。父を破った黒騎士（勇者）を、夫になる人物としている。とある物を求めて人間界の青年商人のもとを訪れる。

辣腕会計

青年商人に付き従っている「同盟」の男性。彼の片腕として、的確かつ冷静に指示を実行する。

火竜大公

魔族最大の氏族のひとつ・火竜族の長。自身を打ち破った黒騎士（勇者）のことを買っている。

軍人子弟

鉄の国の軍人の子息。他の子弟とともに魔王のもとで学んでいた。現在は故郷に戻っているとみられる。

商人子弟

魔王のもとで学んだ、商人一家の三男坊。魔王の推薦で冬の国の王宮で働き始め、財務長として激務をこなす。

貴族子弟

氷の国の貴族の子息。魔王や勇者から勉学・剣術などを学んだのち、諸国をまわって情報収集をしている。

勇者

魔王に説得され、彼女とともに歩むことを決意した青年。人並み外れた戦闘能力をもち、魔王直属の黒騎士として魔族の好戦派を抑えてまわったことも。

女騎士

かつて勇者と旅をした仲間のひとり。湖畔修道会の指導者として活動していたが、人間界の緊張の高まりに伴い、冬の国で軍の指揮を執っている。

メイド姉

魔王の館で働く元農奴のメイド。魔王の代理として弾劾の場に立たされるが、そこでの彼女の言葉が人々を動かすことになった。

冬寂王

先代王の父が戦死後、冬の国を継ぐ。紅の学士（魔王）に対する異端審問を契機に、中央との決別に踏み切った。

執事

冬寂王に仕える老人。その正体は、かつて勇者とともに旅をしていた弓の名手である。年老いてますます盛んなようす。

氷雪の女王

冬の国と国境を接する氷の国の女王。冬寂王を支持し、鉄の国とともに三国同盟を結んだ。情報収集のため、貴族子弟を派遣した。

東の砦将

聖鍵遠征軍の士官。片目司令官逃亡後、開門都市に残された人々の安全のため、魔族との交渉を行った。

白夜王

白夜の国の王。極光島奪還作戦での冬寂王との不和から、南部諸王国で唯一通商同盟に不参加となる。

片目司令官

聖鍵遠征軍の元司令官。開門都市撤退の責により処罰されるところを白夜王に拾われた。冬の国を怨む。

お嬢様
こちらでしたか
カ…
カ…

…お嬢様って
私のことか？
なんなのだ
その呼び方は
そんな呼び方したコトなかったろ…
よくぞ
聞いてくださいました！
ある場所における
メイドの作法です
そこでは
男性を〝ご主人様〟
女性を〝お嬢様〟と
呼ぶのが習いなのです
メイド道…
奥が深いです
……
やはり
スカートが
短いな
二本も
その場所の
正装らしいぞ

お嬢様は
今日も徹夜ですか？
コポ…コポ…
ああ
まあな
いい加減にしないと
身体を壊しますよ
うーん
しかし
面白いのだ
やめられん
そっちだって
ずっとメイドだろ？
メイドは技を
磨く必要が
ありますからね
体を動かさねば
メイドの真理には
辿りつけません
ずっと
引きこもって
本だけ読んでいる
お嬢様と一緒に
しないでください
むう
はい
どうぞ
ああ
ありがとう
カチャ…

…私に
気をつかわなくても
いいんだぞ
メイド通には
ご主人様が
必要なのかも
しれないが
貴女には悪が
ありますからね
あの日――…
"虫"として
死んでいくしか
なかった私に
生きる意味を
与えてくれたのは
…貴女です

……
お茶のおかわりは
いかがです？
そうだな
もらえるか？
はい
少々
お待ちを
お嬢様♪
そよは…まだ
続けるのか…

ヤレヤレ
ファンダメンタルズ
最適化
パレート
債権
所得
内需
成長率
産業
空洞化
――興味は尽きないな
これは おそらく価値観か…名前が本体なのだろうな
概念に名前をつけることによって新しい価値観が発見…創造される
この場合 発見と創造は同じ行為で その瞬間に世界が拡張される

つまり
視座の数は
世界に対する係数
視座を多く持つほどに
多くの世界を
見ることが叶う
それが知識の
学習の意味
我が一族の
存在意義
我らは概念に
名前をつける
新しい概念で
世界を拡張する
概念と概念は
時に出会い
――融合して
生み出した我々にも
思いつかなかったような
変化を遂げる
それは我らが
手にする実り

…知ることは
素晴らしい
世界は
素晴らしい
この世界にはこの世界を
加速度的に拡張する
存在がたくさんいるんだ
それは魔族だけ
ではなくて…
人間
二つの世界が出会ったら
どれだけの「組み合わせ
爆発」が起こるんだろう？
概念と概念が融合し
どんなに素晴らしい
世界を見せて
くれるんだろう？

魔族や人間…
それらが手を取り合える
日が来たなら——

どんなに視野が
広がるのだろう

どこまで遠くが
見えるのだろう

そう…
丘を越えた時の
ように——

その時
魔族や人間を…
種族の枠を越えて

…「魂持つ者」
そう呼べたら
ステキだな——

お待たせしました
お嬢様…
カッ カッ
すぅ…
あ…

ガハハ
なかなか良い呑みっぷりよ
ガハハ
酒
こりゃあ旨い酒ですな
鬼族が作る米の酒よ
この街には娘が世話になっているからのう
ガヤガヤ
あの…公女様は今…
すみません…
おお
出かけていていないとはな
向こうの思うツボよ

娘のこととは別に
気になることも
あってな
…岩将殿は「蒼魔族」を
知っておるか？
蒼魔族ですか？
戦ったことはある
あんまり詳しくは
ありませんな
あのころは
古城の見回りも
つとめていなかったや

蒼魔族とは
蒼い肌をもつ
魔神の末裔たる魔族
魔界八大氏族の
ひとつにして
勢力も強い一族だ
魔力に優れ
戦闘能力に
秀でておる
他族と交わる
気風をもたず
純血を旨とする

歴代魔王のうち
四名を輩出した
大氏族
そして
人間界を欲する
氏族でもある

その蒼魔族を最近
この都市で見かけると
いう話を耳にしてな…
開門都市はいまや
人間族と魔族が
混交した街だ
蒼魔族が住んで
悪いわけでは
ねえんだが…
たしかに
気になる話ですね
わかりやした
さっそく調べて
みましょう
情報
感謝します
うむ
ところで
娘はどこに行って
おるのかのう？
しゅん
悲しそうな

魔族豪商殿の求めで
塩を買い付けにですね…
雲竜の爺か
あやつも手広いのう
しかし 塩は
魔界では貴重品
塩の産地である
極光島を失ってからは
どこも品不足の
はずだが…
ここにないものは
ある場所で求めるほか
ないでしょう
ある場所って
言ったってな…
心当たりが
ありまする
！
どこだ？
それは…

……！
人間界…だと…？
ぴぴ…
生き返った心地です
ホウ…

肝が
冷えました
まことに
人間界という
場所は寒くて
かないませぬ
いえ
そういう
意味ではなく…
？
人間界の酒も
なかなかの味
温まります
…その壺
全部飲んで
いいですよ
そういえば
魔界はずいぶん
暖かかったですね
ええ
人間界でいう
…冬？なるものが
ありませぬゆえ
…暖炉に火も
くべましょう
少々お待ちを

火打石を…
ボッ
ヒュゴオオオオ

さて
と
どうして公女がここにいるんです？
さっき言ったとおりです
お客人…商人様に会いに
どうやってきたんです？
転移魔法ですか
妾は魔法は使えませぬ
転移符を符術師から求めました
商人様の居場所は通りすがりの魔法使いに探知魔法で…

して
どのような品物を
お求めでしょう
公女様
塩を
塩は魔界では貴重品
これを融通して
いただきたいのです
いかほど？
わかりませぬ
必要なだけ
何とも曖昧な
注文ですね
…？
ですから
来ました
この注文を
こなせるのは
商人様しか
いないと踏んで
出向きました

…聞いていたのかや？
いえ
ちょっと考えごとを
これは謎かけでしょうか？
妾は愚かしき子女ゆえ
考え深い殿御にとっては謎かけかもしれませぬ

賢き女子は
万象の識を集め
知を尽くして
物事に当たります

しかし
心得をもつ女子は
殿方を立てる
ことにより
何もせずとも
それ以上を
手にしまする

それが妾が
母上から受けた
竜の教え

商人様に
なるべく多くを
手に入れてもらう
ためならば
謎かけでも
なんでも
いたしましょう

殿御に御力を
ふるっていただくのが
子女の誉れと
心得ておりまする

何もかもが
珍しい
退屈しませぬ

人間界の世界は
初めてですか？
もちろん
初めてです

食事からして
魔界とは
まるでちがう
パンという食べ物は
美味しいものですね

聞いていたのより
ずいぶん高くて
路銀で苦労しますが…
あは

教会という
ものも良い
賛美歌というのは
わくわくする
代物ゆえ

ひとつの建物が丸ごと
楽器などとは思いつきも
しませんでした
人間とはすごいことを
考えるものです

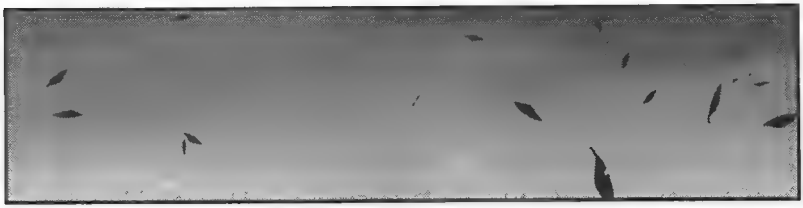
そして
なによりも…
青い空と
まぶしい太陽――

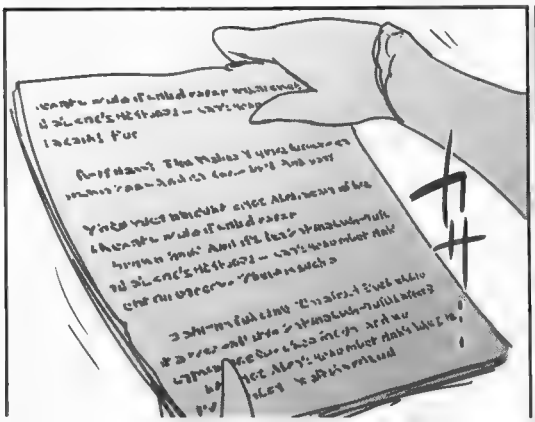
あの感動は
言葉ではとても
言い尽くせませぬ
魔界の太陽は
碧で…空も碧
なんでしたね
私が作ったときは
夜ずれやーませんでしたが
人間界とは
まこと
興味がつきませぬ

ここまで危難に遭わなかったのが不思議ですよ
隠してはいたのです
見つかっても少しごまかせば面白いように見逃してくれまする
ガヨ…
…しばらく人間界にいますか？
当面の塩は手配しましょう
本当かや？かたじけない

貴女が
貴女の
存在が
「割り切れぬもの」に
繋がるかも
しれませんね
…「割り切れぬもの」？
私たちは
知らなすぎるのでは
ないでしょうか？

何を？
おそらくお互いを





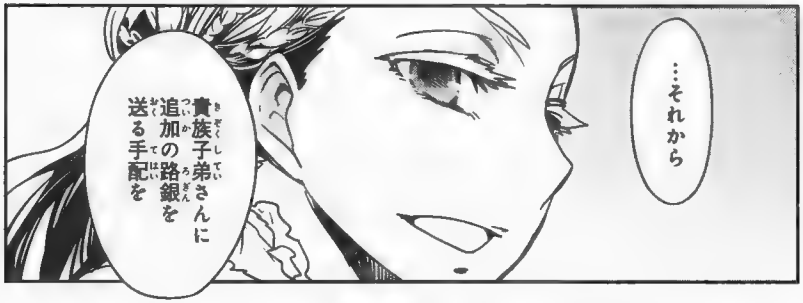
氷の国
氷雪宮殿

我が敬愛する
氷雪の女王へ
週日 国元を出ましてから
ずいぶんな時が流れました
大陸中央部は まだ秋の
気配を残しておりますが
道を行き交う
馬車の量は少なく
人々の表情は冴えません
麦をはじめ
物資の値段が高騰
しているからです
こちらに来てから
多くの領主や貴族
王族の方に
ご挨拶しましたが
顔色は三色
戦の喜びに
輝いているか
決断の苦渋に
しかめられているか
民を思って
憂いておられるか

とはいえ
さすが中央
社交界は洗練
されていますし
流行のドレスは
襟ぐりが深く 悩殺
されてしまいますね
最新のドレスを一着
長手袋を二揃い
送らせていただきます
すみれ色は女王に
お似合いになるかと
思います
クス…
追伸
できましたら路銀の
追加をお願いします
ハッ
クシャッ…!
ピラ…
追伸の追伸

そういえば
湖の国の女王が
関税六割は
きついって
仰ってました
「秘密同盟とか
すればよいですよ」
と言っておきました
他にも五人の領主が
今年の飢饉を
乗り切るのが
辛いとのこと
「氷の国に
甘えれば？」
などと適当なことを
喋っておきました
そうそう
湖の国から
木炭と毛布を
送ったそうです
着きました？

湖の国に
密使を
ハッ


…それから
貴族子弟さんに
追加の路銀を
送る手配を

旦那様
雇った傭兵の
隊長がこれに
うむ

よう
大将
戦の終わりまで
よろしくな
傭兵隊百人…
役に立つぜ？
ふむ
百人…か
傭兵隊長
その人数…
増やすことは
できるか？
此度の戦は
教会と聖王国の
お声がかり…
我が権勢を
見せつける
絶好の機会なのだ
貴族はもとより
王直属の軍にも
劣らぬ軍勢に
せねばならん
なに
報酬ははずむぞ？

他の傭兵団や傭兵たちの渡りをつければ…
そうだな
二百か三百は増やせるかもしれねぇ
おお
だが報酬の方は…
おおもちろんだ貴様の傭兵団への報酬は今の倍でどうだ
それだけじゃ足りねぇな
何？
荒くれどもが戦場で求めるものはなにか…わかるよな

ん…
ああ
ふん…
なるほどな
いいだろう
冬の国に
入った暁には
最初の村と
二つめの村で
二日間の略奪を
許してやる
話のわかる
雇い主でよかったぜ

ざわ
ざわ…

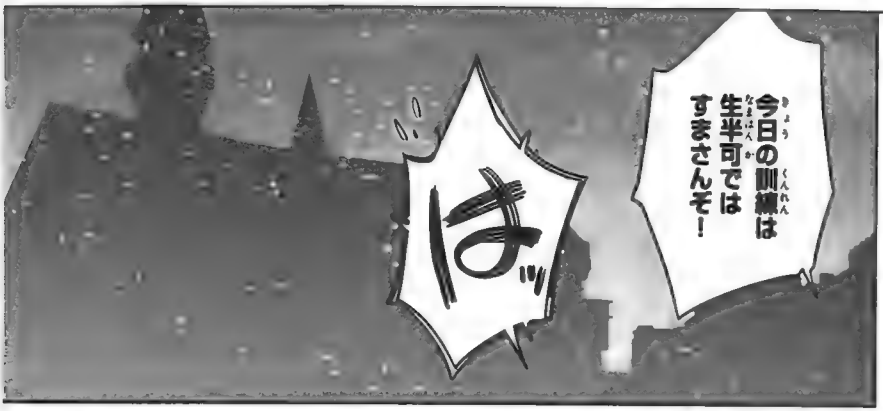
隊長！
仕事の話はまとまったのか？
わ
あ

野郎ども
雇い主の意向で頭数を増やす！
手分けして他の傭兵団などに当たれ！

えぇ
ぇ
ぇ

おおおおお
ひさびさの
でかい戦争だ！
稼ぐぞ
野郎ども!!
はッ
はッ
セッ
今日の訓練は
気合入ってるな
お

おーい！
戻ってきてたのか
ああ
姉妹は無事鉄の国に送ったよ
あとは鉄腕王がまかせろと
私がいない間にずいぶんなまっているじゃないか
びくっ
いやーすまん
どうも教えるのは苦手でな


今日の訓練は
生半可では
すまさんぞ！
ば

ぜー
ぜー
ぜー

その後
変わりはないか？
ああ
中央との緊張は
あいかわらずだな

魔王は魔王城に入ったまま…
帰ってくるのはいつになるんだろうなー

魔界の方は…？
あー
あっちの方が平穏かもな

…ああ

……
魔法使いのことはやっぱりわからないか

伝説の図書館に向かった…らしい
だけどそれから先はさっぱり足取りがつかめないんだ
伝説の図書館の場所も全然わからなかった

でも
あいつのことだ
きっと俺じゃ
見つけられない
図書館に行って
そのまま
本を読んで
引きこもって
いるのかも
それも
そうだな
あいつなら
ありそうな話だ
バトル開始!!
どうした?
こちらでしたか…っ
中央が…
宣戦布告を…!!

宣戦布告があったって!?

これが今朝届いた書面による正式な宣戦布告だ
時を同じくして教会からも破門状が送られてきました

早すぎる……！
どうして
こんな…
まさか
あの物価の
上昇が…？
小麦の価格上昇や
物資の不足…
…我ら南部緒王国から
略奪して その財貨を
もって冬を越そうと
いうのかもしれぬ
あるいは
王侯貴族が小麦の
高騰で手に入った
一時の金にあかせて
短期決戦を
決意したのやも
しれませぬ
書状には
会戦の場所…
そして期日が
指定されています
こちらを
ご覧ください
バサッ

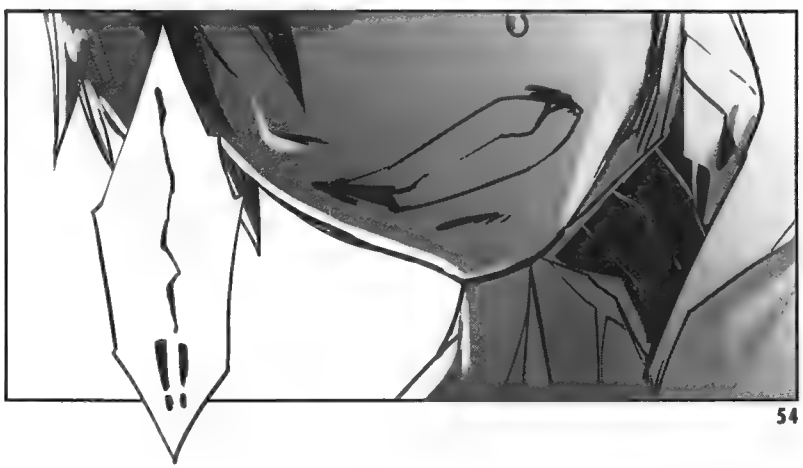
期日は十日後…
北部草原にて会戦とあります
ここから山ひとつ越えたところですね
北部草原
南部諸国
冬の国
もし この会戦を受けなければ…
中央軍は そのまま進軍
中央軍は すでに軍を発し向かっているものと思われます
対魔族用のため防御施設が南に偏っている我らは対抗できず
結果 王都での決戦になってしまうかと

この会戦を受けぬ
という選択肢はないということだ
ギュッ…

戦いたくないのに
戦いたくないんだ俺はっ！
俺やあいつが蒔いたことがこんな…
勇者
それは違う
これは我ら愚かしい人間の戦だ
「農奴の権利を認める」と判断した時からこれは人間の手による人間の戦になったのだ
我らは今この時を感謝こそすれけっして恨みに思っていたりはしませんぞ
違う…
違うんだ
勇者…

うまく
いえないけれど
これは違う
こんなものが
あいつの目指したもので
あるはずがない
これが結末だなんて
あり得ない

「あの丘の向こうに
何があるんだろう？」
…って
思ったことは
ないかい？


!!

戦を望むのは
「独占者」
限られた世界の中で
「豊かさ」ではなく
「優越」を求めるために
寡占しようとする者
…そこは間違っちゃ
いないはずだ
どうすればいいんだ？
どうすれば止められる？

そうだろう？
勇者だものな！

なんで魔王は
こういう時に
いねーんだよ
あいつだったら
サクっと解決
しちまいそうなのに

この戦争の
向こうに――

……

戦になったとして
どれくらい被害を
出さずに戦える？

相手の戦意と
数次第だな

この種の戦は
平野に両軍が集結し
時間指定もなされる

その後 合図で
騎士が騎乗し正面から
衝突することになる

これが一日につき
一～二回 数日の間
繰り返されるだろう

魔族相手とは違って
お互いある程度の
ルールに則って
戦うんだ

だが
もちろん戦えば
被害は出る
…死者もな

犠牲は
出したくない
味方にも
中央の軍にも
勇者…
それは…
これは
甘さじゃない
今後の展開上
必須なんだ

天気次第…
だな
——雪か！
そうだ
こちらでは
もう積もっているが
北の草原には
まだ降雪はないだろう
山脈が雲から
雪をしぼりとるのだ
雪が降れば
戦意も下がるし
戦は停滞せざるを
得ない

あの草原が雪に覆われるのはどれくらい先かわからぬが…
本格的な降雪が始まれば雪の降る間は戦を避けることが出来よう
おそらく四週
早ければ二週持ちこたえれば雪は降るはずだ
それだけの時間を凌ぐことができれば——

終 第十七話
これは我ら愚かしい人間の戦だ

第十七回

生物に不可欠な「塩」という存在

我々の身近にある「塩」は生物にとっては必須であり、古い時代では塩をめぐって戦争が起きるほど重要だった。

生物にとって欠かせない塩は、魔族にとっても同様に必要不可欠なものだった。

生物が生きていくうえで欠かせない塩

我々にとって、塩は非常に身近な存在だ。細胞を正常な大きさに保つ役割をはじめ、神経の刺激伝達や食べた物の消化、栄養の吸収、体内の水分調整など、塩は身体のさまざまな機能に深く関わっている。

体内で塩が不足すると、ケガの治りが遅くなるほか、内蔵の機能が低下したり無気力になったりと、さまざまな悪影響が出る。地球上に住むほとんどの生物にとって、塩は生きていくために欠かせない重要な物質なのだ。

「まおゆう」では、青年商人を訪ねた火竜公女が「塩は魔界では貴重品」と語った。人間にとってのそれと同様、魔族にとっても塩は必要なものなのだろう。

かつては富の象徴とされたことも

塩を得るには、①塩田に引き込んだ海水を天日に干す、②海水を煮詰める、③塩湖で直接すくう、④岩塩を掘る、の4つの方法がある。最もポピュラーな方法としては、①②の方法だが、海水に含まれる塩分はわずか3%。大量の塩を得るには塩田をつくるしかないが、それには広い場所と十分な日照量が必要だ。③の塩湖から採取する方法は、塩湖のある少ない地域でのみの限定された手法だった。④の岩塩を掘る方法については、地層さえ見つかれば、効率よく大量の塩を得られたが、地質学が発達して岩塩の地層を発見しやすくなったのは、20世紀以降のことである。

つまり、塩の確保は何千年ものあいだ課せられ続けた人類の課題でもあった。古き時代では塩の採取場所をめぐって争いが起きることも珍しくなかったようだ。

給料を表す英語の「salary」は、塩を表すラテン語の「sal」が語源。古代ローマで兵士に給料として払った塩が由来ともいわれている。これは国家が塩の物流を握っていた証明といえる。実際、塩を国家専売としていた古代中国や、価格統制を行なっていたローマ帝国をはじめ、世界中の国々にとって塩は重要な財源だったのである。このように、塩は古くから支配者層が独占する対象でもあり、長らく富の象徴とされてきたのだった。

塩を求めて人間界にやってきた火竜公女は、青年商人とともに冬の国に現われた。

立派に代役

お姉ちゃーん
必要なカツジはこれでいい？
カチャ
カチャ
…ええ
ありがとう
カチャ
チョン…
もうすぐ足らなくなっちゃうカツジがいくつかあるよ
やっぱりよく使う文字は偏っちゃうわね
トントン…
学士様よろしいですか？
す…
パァァ…
はい
どうぞ

まおゆう
魔王勇者
第十八話
聞きましたよ！
どういうことですか!?
ムッ
ムム…
いない…？
キョロキョロ
肝心な時に限って……！
ここにいる!!
ガバッ
あら

第十八話 Alchemy and Hero 18th Chapter

勇者が、必要

——ほら
これだ
魔王の刻印…
次期魔王候補の証だ
これが…
無駄に成長した胸の谷間に…
無駄とか言うな！
…本気でなるつもりなんですか
その意味を知らないわけではないでしょう
もちろんだ

魔王になった者は
冥府宮に入る
冥府宮には
歴代魔王たちの魂が
封印されており
新魔王に
魔王の知識と
戦闘力を授ける…
と言えば
聞こえはいいが
要は歴代魔王の
魂に汚染されて
しまうわけだ
そこまで知ってて
なぜ…
私には
見てみたいものが
あるんだ

私は二つの世界がふれあう様を見てみたい
そして
できうるならば私の運命に出会いたいんだ
これを見てくれ
コト…
これは…？
パァァァ

人間の…
男の子？
うん
先週
生まれたんだ
この世界に
たった2つの
特異点…
Living Singularity
「勇者」だよ
!?
まさか…

うん
——この人に
会いたいんだ
そんなっ
この子は…勇者は
魔王を殺しに来る
存在ですよ!?
それが
いいんじゃないか
私に会いに
来てくれるんだ
私が魔王になれば
いつか…必ず
彼の剣は
私を殺すかも
しれないけれど
殺される前に
「こんにちは」くらいは
言えるだろう
もしかしたら
「ご機嫌いかが」も
言えるかもしれない
奇跡でも起きたら
——あの黒髪に触れさせて
もらえるかもしれない

それが
私の持っている
唯一のチャンス
だと思う
「見たことのない未来」を
見るための
この図書館に
収められていない
物語を読むための
――運命と
出会うため
魔王継承候補戦は
どうするんですか？
ぅ

魔界中から
選りすぐりの
六人の猛者が
従者まで連れて
集まるんですよ？
彼らに勝たなければ
魔王になることも
できないんです
勝てると
思ってるんですか？
そこはまぁ…
交渉でなんとか
ホラ
…ネ？
できるわけが
ありません
千歳
いい…
ずーん
…ですから
私がメイドとして
貴女に仕えましょう
――ご主人様
…え？

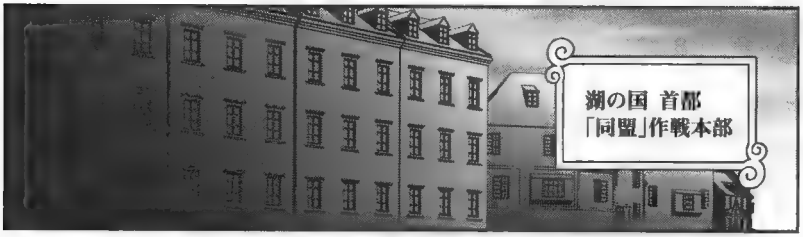
バカを言うな
メイドがひとり増えたからってどうなるというのだ
それはご主人様がメイドをご存じないからでしょう
どの書物を読んでもメイドの卓越した家政能力 実務能力…
そして戦闘能力について絶賛されているのですよ？
…そうなのか？
これは私の夢でもあります
私も「メイド道」を極めたいですからね
…貴女は理想のご主人様なのですよ
え
こんなグータラでいい加減な人は見たことがありません
素材は良いのに宝の持ち腐れ
本当に理想のご主人様です
ずーん

命の危険があるかもしれないんだぞ
本当にいいのか？
ええ もちろん
——だって
「定められたあの方を待つために」…なんて
そんな夢応援しないわけにはいきませんでしょう？
私だって女性の身に生まれているのですから
檜の国 北の草原 中央連合軍集合地
おお 寒い なんて寒さだ！
もっと薪をくべよ！
ハッ

他の陣幕はどうなっておる？
ハッ
総大将の灰青王は近衛騎士団斧騎士団を率いて到着
山の国の重装騎士団梢の国の弓騎士団も揃っております
ですが…全体としてはまだ半分も…
ウスノロどもが！
今日が参集日時ではないか何をしているのだ！
ガシャアアン
チッ
敵は？
敵軍総数は二千五百程度
森林の縁に張りつくように布陣しております
世界の辺境に張りつくように生きていた野ネズミどもめ
草原の中央に出るのが恐ろしくて仕方ないと見えるな

そういえば
付近の地主から
樽酒の献上品が
ありまして
なかなか
上質の氷酒を
二十樽も
地に遺いつくばる者の
せめてもの知恵か
新しく上に
立つ者が誰か
わかっておるわ
よかろう
もらってやれ
どうせ
戦闘もしばらく
始まらん
酒でもなければ
寒さも紛れぬわ
はっ
そうだ
傭兵隊長…
やつのところにも
一樽差し入れてやれ
注文どおり
傭兵隊を四百まで
増やしたからな
我が軍勢は総数で
総大将たる灰青王をも
凌いだ
勝利の暁の
我が名声は
揺るぎないな

さあ 晩餐の
用意をせよ！
今宵は
勝利の前祝だ
はははは


湖の国 首都
「同盟」作戦本部

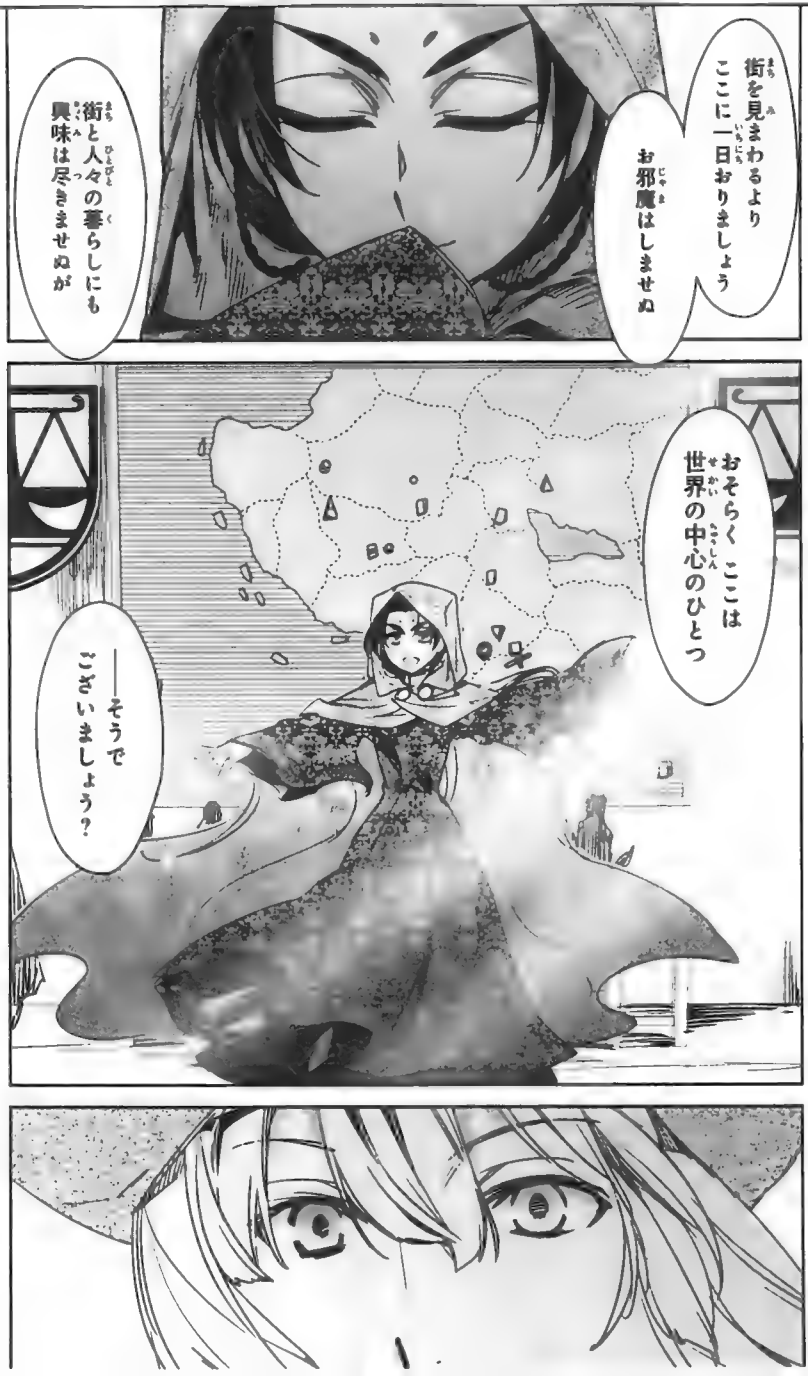
3ポイント上昇
買い指示だ
強気でいけ!!
銅の国で
銅を積んだ
船を発見!!
押さえろ
倍値でかまわん!!

ホウ…
…物珍しいですか
はい

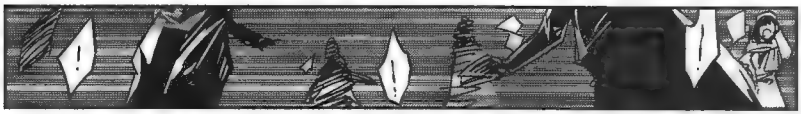
魔界の情報を
いろいろ聞かせて
いただきました
情報は交換の
約束ですからね
好きに見ても
かまいませんが…
こんな場所で
いいんですか？

市中の観光など
されるなら
護衛をつけますよ
いえ
いいのです

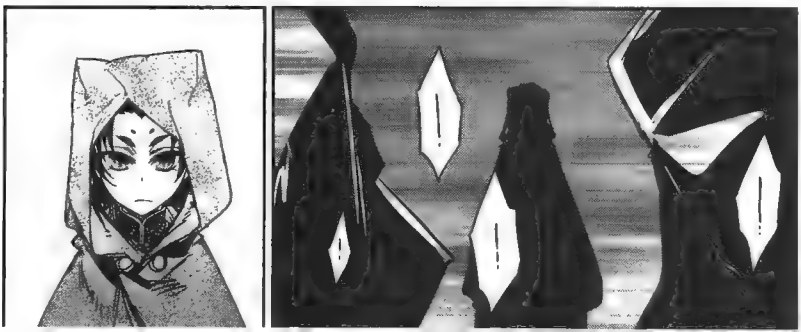
ここは商人様の
仕事場なのでしょう？
あの大きな地図は
人間の世界で
ございますね？
そうです


街を見まわるより
ここに一日おりましょう
お邪魔はしませぬ
街と人々の暮らしにも
興味は尽きませぬが
おそらくここは
世界の中心のひとつ
――そうで
ございましょう？

私は異境からの旅人ですが
愚か者ではございませぬ
…そうですね
これも取引です


！
！
！

委員
昨晩の動きです
――梢の国での買い付けは？
進んでいます！
小麦の相場はプラス百六十五
…鈍化してきたな


！
！
！
！

征伐軍
集合を継続中
遅れが出て
いるようです
士気が低く
どうも軍規に
乱れがあるようで
驕っているのか…
冬寂王の策略か
策略だと
見ますね
迂回されてはいますが
冬の国の商人に氷酒が
ずいぶん売れたようです
ダダダダダ
委員!!
緊急です!!
教会が後ろ盾につき
聖王国が金貨の再鋳造を
計画しているようです!
!!

未確定ですが
現行の金貨二十八枚を
新金貨十枚へと交換

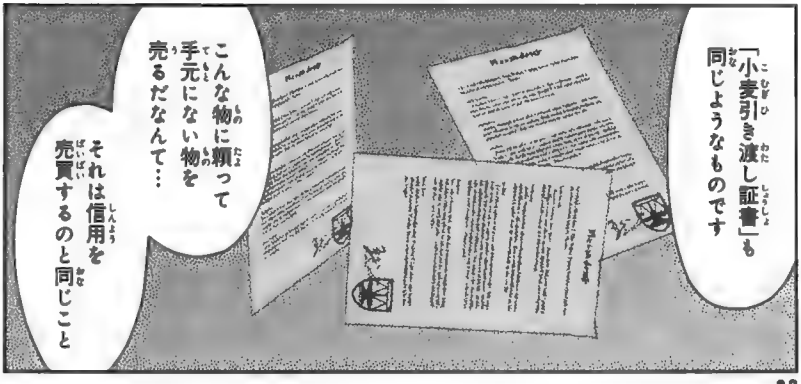
現行金貨は法によって
所持も使用も禁止されるとの
見方が強まっています

この新金貨は
交換比率を超えた数が
鋳造されるとの
情報もあります

金貨を作る王国…
後ろ盾の教会への
信用が 金貨の価値を
保証しているのです

いや…彼らに
保証することは
できるのかな…？
信用がどこから
生まれるのか…
連中は理解して
いるんでしょうか

勘違いしてや
いませんかね
王侯や貴族
領主に教会
そんなものに
信用があるなどと


「小麦引き渡し証書」も
同じようなものです
こんな物に頼って
手元にない物を
売るだなんて…
それは信用を
売買するのと同じこと

信用の源泉は
大地です
大地…
大地の恵み
大地から麦を得る
ということ
岩を切り出し
木炭を焼き
鉄を鍛え
パンを焼き
家畜を育てる
すなわち…
求められたものを
生み出すこと
それを相手に
必ず渡すこと
取り引きを
凍てつかせないこと

結局は大地からの収入が信用なのです
信用を奪うことはできても増やすことができない
そのような行いは商売とはいえませんね
彼らは商人ではないですから
ええ
「損得勘定こそ我らが共通の言葉」
その意味するところは「誰もが少しでも幸福になりたい」ということ
他者の幸福をも認めるということです
さあ
我らは商人の義を通しに行きましょう
キュ・・・

公女
我々は冬の国へと行きますが…
お供しましょう

では堅守を意識した布陣で
となれば騎士戦力よりも歩兵を…
特に槍兵を重視したいな
多少の工兵も必要だろう
防寒具も必要でございますね
冬の国 王宮
作戦会議室

先行隊は？
重装歩兵を中心とした部隊だ
もちろんこちらからは手を出さないよう厳命してある
敵軍の集合も遅れているようだな
なぜかは知らないが…
チラ…
ほっほ
なんともラッキーですなぁ
これができうる限りではある
私も今日発つ
私に任せろ勇者
なるだけ誰も傷つけないさ

でも
お前の愛剣って
物騒だからなぁ
愛剣も愛馬も
凶暴なくらいが
ちょうどいいんだ
必要とあらば一人も
欠かさせることなく
ここまで連れて
はねてみせる!!
心配だ…
将官
お前も物資を
とりまとめ次第
後詰めとして
補給を持って合流し
将軍を
支援せよ
ハッ
中央の征伐軍の
総数はおそらく
二万に迫るだろうな
こちらは
四千五百が
いいところだろう
聖鍵遠征軍以外で
ここまでの規模は
例がありませぬな

いずれにせよ
軍の指揮は
勇者よりも
絶壁将軍の方が
向いております
そうそう…
ん
ゴロス！
いやはは
ふっ
はは
はは
おほほほ

よし
中央との戦いはまかせた
いざとなれば俺もすぐ飛んでいくさ

ああ
まかせておけ！
腕が鳴る

なぜだ
なぜ奴らは屈服せん
やつらはなぜ生きている!?
背教者が！
異端が！
反逆者が！
白夜の国 王宮
何がおかしい！

悪魔だからに決まっておるではないか！

豚に向かって「貴様は豚だ！」と言ったところでなんの意味がある

殺されなければ終わるものではない

そちらこそ追い詰められているのではないか？

白夜王…？

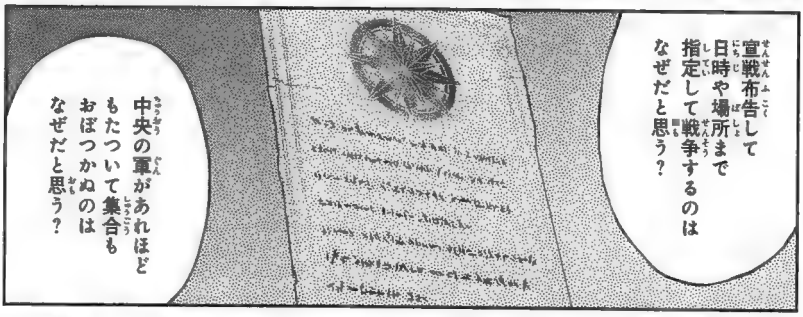
フン

ククク…

その上
この忌々しい
布告だ！
農奴の解放だと!?
できるわけがない！
愚かな者を騙す
お題目を唱えている
だけだというのに
昼も夜も絶えず
農奴どもが国境を越え
鉄の国へと流れておる
冬寂王…
あやつにだけ
なぜ人々が
味方をする？
三か国が
なんだと
いうのだ!?
このままでは
白夜の国が…
我が白夜だけが…
ハハハ…
なぁ
白夜王
何を悩む
必要がある

奪えばよいではないか？
鉄腕王の国
氷雪の女王の国
たっぷりと身の詰まった果物のように熟れておる
いずれにせよ背教者
遠からず人間世界で腐って落ちよう？
それなら その前に奪って食って悪い道理があるものか
…いけるのか？
この国にいるのはなんだ？
世界で最高の経験を経た常備軍だと抜かしていたではないか
…
しかし我が手勢の多くを極光島で失った
一年の訓練は施したが同じ南部諸王国が相手では練度で劣るやもしれぬ…

あはは!
中央も
貴様も!
そして その
冬寂王とかいう
小せがれもまったく
わかっておらんな!
なに?
常備軍の
強さというものを
常備軍の
強さ…?


宣戦布告して
日時や場所まで
指定して戦争するのは
なぜだと思う?
中央の軍があれほど
もたついて集合も
おぼつかぬのは
なぜだと思う?

…何が
言いたいのだ
つまり
中央は常備軍がない
ゆえに軍を発するにも
時間がかかるのだ
対して
ここにはすぐに
戦争ができる
兵士が常にいる…
!!

そう
奇襲だよ
それでは野盗と
同じではないか！
教会の非難に遭えば
国が危ういのだぞ!?
その教会の敵が
相手なのだ
教会率いる中央が
軍を発しているのだぞ
！
野盗？
結構！
国境の盗賊どもに
金を払い
鉄の王国を
荒らさせるのだ
防備が分散した
時点で騎兵による
強行奇襲をかける
畑も家も燃やし
一気呵成に鉄の国を
落とすのだ
……ク
ケケケケ

それしか
ないようだな
貴様に兵を
預けてやろう
ク
ク
ク
まかせておけ！
この片目の闇を
鉄の国にぶちまけて
くれよう

伝令っ
伝令で
あります!!
何事だ
鉄の国に
白夜の国の軍
二千が強襲！
国境を越え
侵入しています
!!

こんな時に…
いや こんな時
だからか
北の草原
白夜軍
南部連合軍
鉄の国も主力を
北部草原に向けて
しまっております
国境警備兵
だけでは…
しかし我らにも
援軍を送る
余裕はない

伝令
伝令で
あります！
白夜軍については
すでに報告を
受けておりますぞ

違います！
南極海より
魔族軍です！
ゲートを越えて
最低千五百人が侵入！
冬の国
極光島
凍結海
魔族軍
!!

Raw manga

manga-zone.org

そんなことが…
あまりにも
タイミングが
悪すぎますな
あいつ
なにやってやがる
何かあったのかよ
…魔族の方には
俺が行く
勇者…
すまぬ
これ以上の
軍は割けぬのだ
冬寂王
魔族とも
やり合いたくないって
いったら呆れるか？

……
勇者…
悪い
変なこと
聞いたな
いろいろ大変だけど
そっちはまかせたぜ
勇者殿はなぜ
あんなことを…？
ヒュン
!!!

やることも問題も山積みだ！
鉄の国との連絡を密に取れ！
前線の女騎士殿に伝令を！
急げ！
はッ

南極海
ゲート周辺
ヒュー
ヒュー
…このへんか？
魔族はどこに…
飛行呪！

くそっ
なんでこう
なっちまうんだ

ゴメン…
魔王

丘の向こう側…
だって？

まだ見たことのない
ものだって？

そんなのな！

そんなの俺だって絶対見てみてえよ!!
魔王と
俺と
女騎士と
爺さんと
女魔法使い
王様たち
メイド姉妹
メイド長
開門都市のみんな
南部の国のみんな
冬越し村のみんなに
見せてやりたいよ
中央の連中にだって
魔族にだって……!

蒼い肌…
蒼魔族か！
長距離侵攻用の装備か
食糧もあるな
撤退させるとすれば
アレを狙うか…
おうけい

…私も数に入ってた
…数に入ってたのは
すこし偉い
お前…！

女魔法使い

お前今までどこにいたんだよ!?
…出待ち
!?
…うそ図書館
「外なる図書館」か？
どうやっても行けなかったぞ
…あそこは一族しか入れない

…あれ
まだ
殺したい？
…いや
ただ
止めたいだけだ

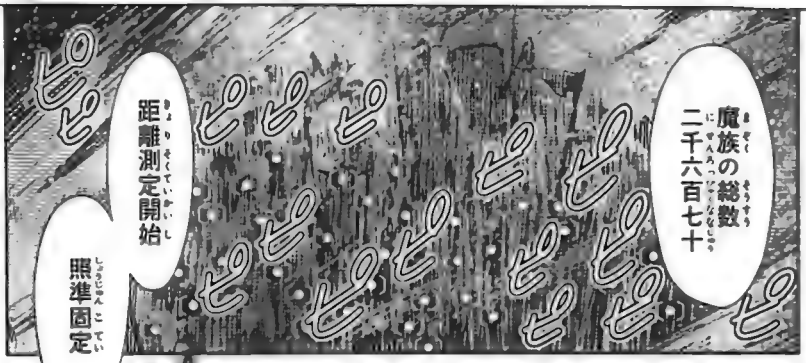
目をつむって
？
ひゃっ
ぴと
なっ…
何を…!?
…連絡回路を形成した
……！
通信魔法か

あれの相手は私がする
勇者は――行って
…おい？
ヒュオオオ
ヒュオオオ
…魔王が待ってる
……!?
魔王を知っているのか？

…待ってる
私があいつらを始末したら…
最大呪文でゲートを壊して
そんなことしたら魔界へ行けなくなっちまうだろ!?
…壊せばいいのか？

最強
壊すって…
どのくらいだ？
どんだけ抉れるか
保証できないぞ!?
なんのために
そんなことを…

必要
勇者が
必要
終
第十八話
勇者が、必要


魔族の総数
二千六百七十
ピピピ

指定範囲
カレントエリア
コンフリクト
…解除

連続圧縮で
時間伸長してまで
術式溜め込んでるんだ！
勇者を！
助けるために！
てめえら
なんかに
構ってるヒマは
ねエんだ!!

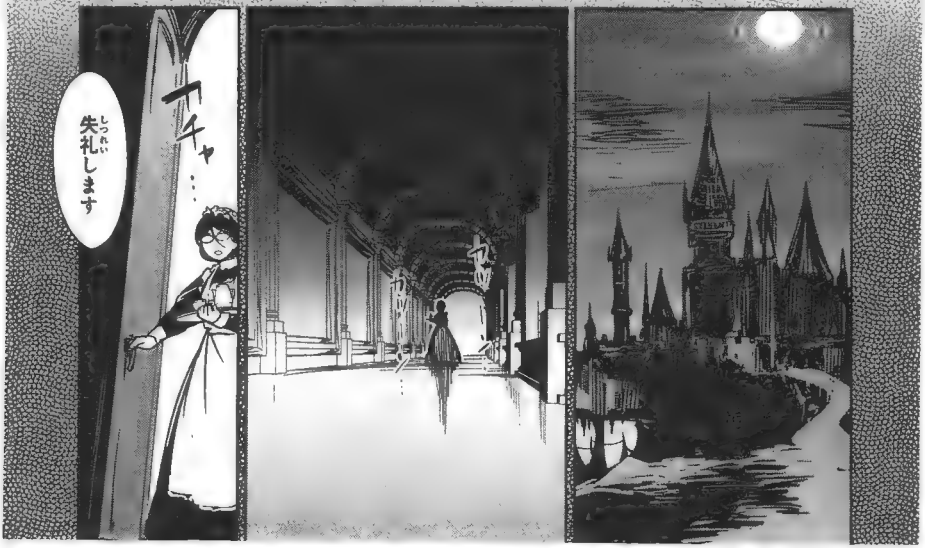
何事だ!?

ヒュゥゥゥ
ヒュゥ
ヒュゥ
ヒュゥ
わかりません…
これは…転移!?
ヒュゥ
まさか…
これだけの数を個別転移などできるはずが…
ヒュゥ

また過激になってやがる…
除去完了
行って
わかった
…見えた

第十九話 Archenemy and Hero 19th chapter

私が商人だからです



……ん
メイド長か
なんですか
だらしない
魔界を統治する
魔王ともあろう方が！
まだ
慣れないなぁ
二の巻、了
付けないとダメかっ

お茶と報告書です
どうぞ
カチャッ
ありがとう
うん
魔界製の「紙」も順調だな
森歌族に作らせたあれですね
これでどうなるんです？
カ…
カ…
戦争の記録を義務付けるんだ
勝敗から場所
日時
敵味方の人数や被害
おおよその用意した物資
かかった費用
参加した武将

目的は
いくつかある

まずは「記録をとる」
ということに慣れてもらう

長い目で見れば
識字率の向上にも
役立とう

だが
なにより…

自分たちが
やっていることを
理解してもらう

魔界は部族や
氏族が入り乱れて
戦乱状態だ

戦を一方的に
否定する気は
ないんだが

本当に必要な戦と
気分や遺恨で
やっている戦を
混同するのも困る

自分たちが
やっていることは

果たして支払った
代価に見合った効果が
得られる行為なのか
自覚してほしいのだ

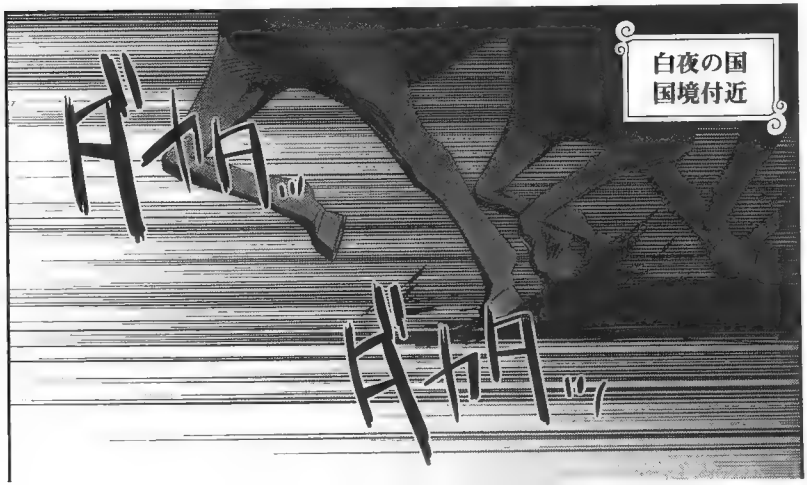
気の長い
話ですね…

勇者が来るまで
そう時間はないから
急ぎたいのだがな
勇者…
ですか
見るか？
新しい画像が
手に入ったんだ
ホラもう
立てるようになったんだ
かわいいなぁ
…なんですって!?

ゲートの封印が
解除された……!?

ゲート解放後
約千五百名ほどの
人間の軍隊が
転移にて侵入
――「第一次
聖鍵遠征軍」
そう名乗って
付近の魔族に降伏を
求めています
至急ゲートに
使者を
向かわせる
遠征軍とやらの
意図を確認せねば
各氏族にも
連絡を
はっ

なんでだ
ゲートには念入りに封印を施してこちらからの手出しは厳禁していたのに…
なんで人間がこちら側に来るんだ…？
こちら側に何の用があるっていうんだ…!?


白夜の国
国境付近

停止！
停止！
止まれぇ
静聴！
ただ今より
司令官の
ご指示がある！
聞け！
白夜の
騎兵たちよ！

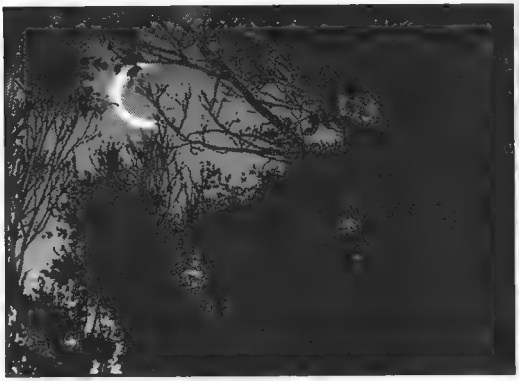
我らは明朝
夜明けより
一時間の後
鉄の国を
強襲する！

鉄の国は
三国通商同盟なる
世迷いごとをほざく
背教者の一党である
奴らは愚かにも
光の精霊に
背を向けた
背教者となった

これは聖なる戦であり
奴らの頭上には
精霊の怒りが
降り注ぐだろう
背教者に
鉄槌を！

背教者に
鉄槌を！

我が軍は
この後しばらく
並足にて移動
森林近くで休憩
仮眠をとる
交代で
休むがいい
騎馬の世話を行え
明日は存分に
働いてもらうのだ
武器の手入れも
怠るな
血に飢えた刃を
愛でて眠るのだ！
白夜の子らよ
貴様らに
精霊の祝福あれ！
おおおおお



パチッ
パチ

ガ…
ガ…

見返してやるぞ
冬寂王とやら…
精霊の教えに背く
異端者め…

我があの苛烈なる
魔界の彷徨を
決死の思いで抜け出た先に
魔族の伏兵を配した冬寂王…
そのうえ
何の落ち度も
ないかのように
振る舞いおって
地獄の業火すら
生ぬるい

ハハハハ

鉄の国は
始まりにすぎん
我を侮辱した者どもに
最高の恥辱を
味あわせてくれる
ﾌﾌﾌ…

鉄の国 国境
山裾の平地

き…
来ました！
銃光個号確認！

本当に
来ましたね…
鉄国少尉
かえって
すっきりしたで
ござろう
長い間 出番の
待機をするのは
疲れるでござるよ

軽騎兵中心の
高速機動戦力
二千…
白夜の国の常備軍と
傭兵の混合部隊
ということです
もうちょっと
多いと思って
ござったが
このタイミングで
この数ということは
国内治安にも不安が
生じているのでござろう
王宮内権力
掌握のためか
農奴の叛乱に
備えるためか
白夜王が手元にも
多少の兵を
置きたかったのだと
みえるでござるな
とはいえ…
チラ…

こちらは
冬の国へ戦力を
送った関係で
兵士四百と
ザッ
開拓民を
ざっと訓練した
即席兵が
これも
五百と少し…
ざわ…ざわ…
これでは
勝負に
なりません
いったい
どうすれば…
……
笑うでござるよ
…そんな無茶な
おのおの方！

ただ今 斥候より
連絡があった！
白夜の国の
騎兵約二千が
ここに向かっている！
これは非常に
良い知らせでござる！
なぜなら
白夜の国が
このような戦に
騎兵二千しか送って
よこさぬということは
白夜の国はもはや
最低限の兵力しか
残っていないということを
示すからでござる！
ここは
おのおの方の
国でござる！
おのおの方の
かけがえのない
大地でござる！
この一戦に勝利すれば
おのおの方の故郷たる
土地も
家も
畑も
家族も守ることが
できるのでござる！

確かに
敵の数は多い
しかし
勝機は十分以上に
あるでござる！
おのおの方のなかには
白夜の国から
逃げてきた者もいれば
白夜の国に
身内をもつ者も
いるでござろう
この一戦は
彼らのために
行うものでもある！
さあ
馬鈴薯を食って
笑うでござる！
「苦しい戦いで笑えば
勝利は自ずと
手の中にある」と
女騎士殿
白き剣士殿…
我が師の
教えでござる
敵の数は倍なれど
それを見据えて
笑うでござる！

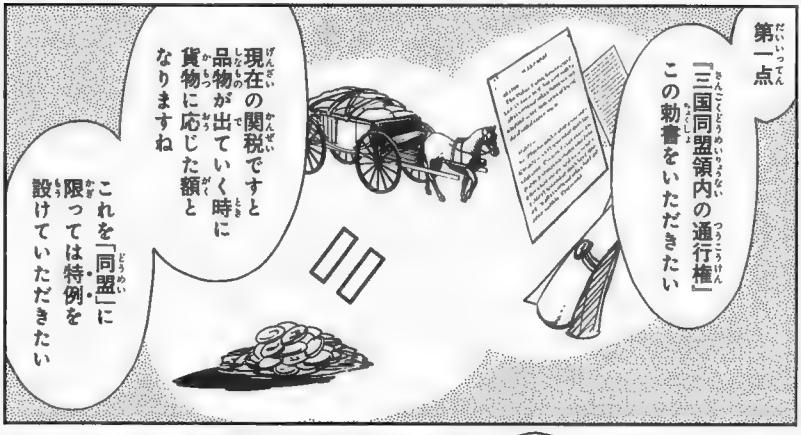
たったひとつ
断言する
勝つのは
我らでござる！
おおおおお

冬の国 王宮
予算編成室
伝令を
まわせ！
国境へ
早馬だ!!
倉庫の物資を
確認せよ！
なかなかに活気が
ありますね
殺気立って
いるんです
騒がしくて
すみません

確認させて
いただきますが…
このテーブルで
ゲームをされていたのは
あなたですね？
なぜ そう
思うのです？
私は操り人形で
本当のプレイヤーは
背後に控えているかも
しれませんよ？
こういった場合
交渉者に裁量権を
与えない限り
現場は機能しません
そんな人を
操り人形とは
呼べませんよね

それに もし僕なら
自分で出向きます
物見高いですから
よくわかります
荷物に関税をかけたのは貴方ですね？
そうです
おっ
あの
ああ
お茶を頼むよ
はい！
PAPAPA…
かわいらしい少年ですね
どうぞお座りください
見習いのようなものです

では
本題とまいり
ましょうか
今日の交渉は
多岐にわたります
要点をかいつまんで
お話ししましょう
す…


第一点
「三国同盟領内の通行権」
この勅書をいただきたい
現在の関税ですと
品物が出ていく時に
貨物に応じた額と
なりますね
これを「同盟」に
限っては特例を
設けていただきたい

特例
とは？
三国通商内部で
商いを行わない
場合です
持ってきた荷物を
ただ単純に
通過させたい場合
これならば同盟領内の
経済には影響を
与えないでしょう？

第二に
「極光島の
租借交渉」です
極光島は
地理的に言って
冬の国の領内に
ありますね
これを貴族領
もしくは荘園に
準じたような形態で
租借したい
「同盟」が
借り上げる形でも
構いませんが
この交渉は
代理交渉であると
ご理解いただいて
結構です
これについては
第三者がおります
極光島を…？
なぜ あのような
場所を……

そして
第三
「同盟」内部には
銀行組織があります
ご存じですか？
知っていますよ
その銀行による
資金の流動化と集中が
「同盟」の大きな武器の
ひとつですよね
「その銀行組織を含む
同盟の商館を
通商同盟三か国の首都に
それぞれ構えたい」
この許可を
いただきたい
！
それは比較的
ありがたく
わかりやすい
話です
第四に
我が同盟は
「三国通商同盟」が備蓄する
すべての馬鈴薯を
引き取る用意があります」
……？
馬鈴薯…を
ですか？

以上が本日の案件です
特記事項として…
現在 同盟には金貨がほとんどありません
これらの交渉は金貨を用いない方法でお願いしたい
…金貨を介さないと？
お茶をお持ちしましたぁ！
カキャ
これは温まりますね
ジャムを入れるのですか
ありがとう坊
へへへ～

どういうことだ…
考えろ……

ひとつめは
通行権の勅書

ただ通り抜けるなら
この商人の言う通り
我が国には
ほとんど影響はない

実行は簡単だ
……だが

大陸の南の果てである
我が領内を通り抜けて
どこに行くというんだ？

ふたつめは
極光島の租借

付近の漁業や海運に
問題が生じないのならば
検討の余地はあるな

だが 誰が？
何のために？

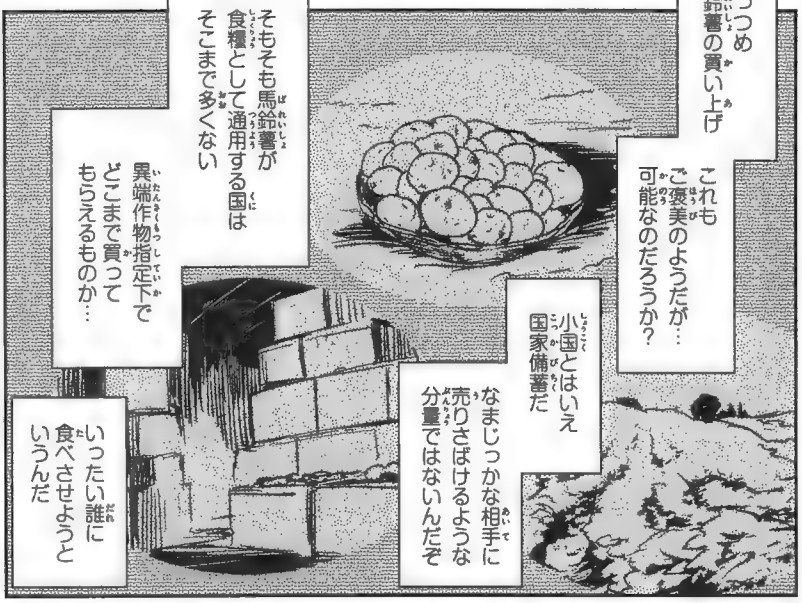
塩か？

島を租借してまで
そんなことをする
意味はどこにある？

みっつめの
銀行の設置に
ついては…

デメリットはなく
見返りが大きい

つまり これは
他の話を通した際の
ご褒美といったところか


よっつめ
馬鈴薯の買い上げ
これも
ご愛美のようだが…
可能なのだろうか?
小国とはいえ
国家備蓄だ
なまじっかな相手に
売りさばけるような
分量ではないんだぞ
そもそも馬鈴薯が
食糧として通用する国は
そこまで多くない
異端作物指定下で
どこまで買って
もらえるものか…
いったい誰に
食べさせようと
いうんだ

それに
どうやって
馬鈴薯を買う?
金貨を介さない
取引といったが…
物々交換?
いや まさか
金貨を失った
「同盟」が持っている
資産……
それは…
——小麦?
!!
……あ
まさか
そんな…

貴方は
小麦で馬鈴薯を
買い上げようと――
小麦を
疑似通貨として
みているんですね！
ええ
そして
その小麦を
三国通商同盟に
投資する
おつもりか!?
ご名答です
そ…そ
その心は…
心は？

——二大通貨体制
はい
そうです
本気なのですか!?
中央の成長能力は弱まっている
であれば新興市場で成長が期待できる地域に投資するのは
もっともな判断かと思いますが？

我が国はその中央と戦争中なんですよ!?
「戦場で稼ぎたければ火の粉が飛んでくる距離が良い」
…我が師の言葉です
命を張るのは兵士ばかりではない
それだけの成長保証がどこにあるんですか!?
一と二の中に
……!
…そのようなことができると思っているんですか?
なぜそのようなことを実行しようとするんです!?

貴方は我が国の領海を抜けて…
魔族との通商を開始するおつもりだ！
はい
その通りです
なぜ…
そんな…
私が商人だからです

魔族であろうと
「損得勘定は
共通の言葉」
――そう
信じています
この世界は敵と
味方だけですか？
白と黒
だけですか？
そうであれば…
あの人は何を
苦労しているの
ですか？
あの方は
何を夢見ている
というのですか？
ぱり…
妾からも伏して
お願い申し上げる

現在 魔界にて唯一
人間と魔族が
共存する街
開門都市
その自治政府の
代表として
どうかお願いする
…あの島を
貸してほしい
我らには塩が
必要なのだ

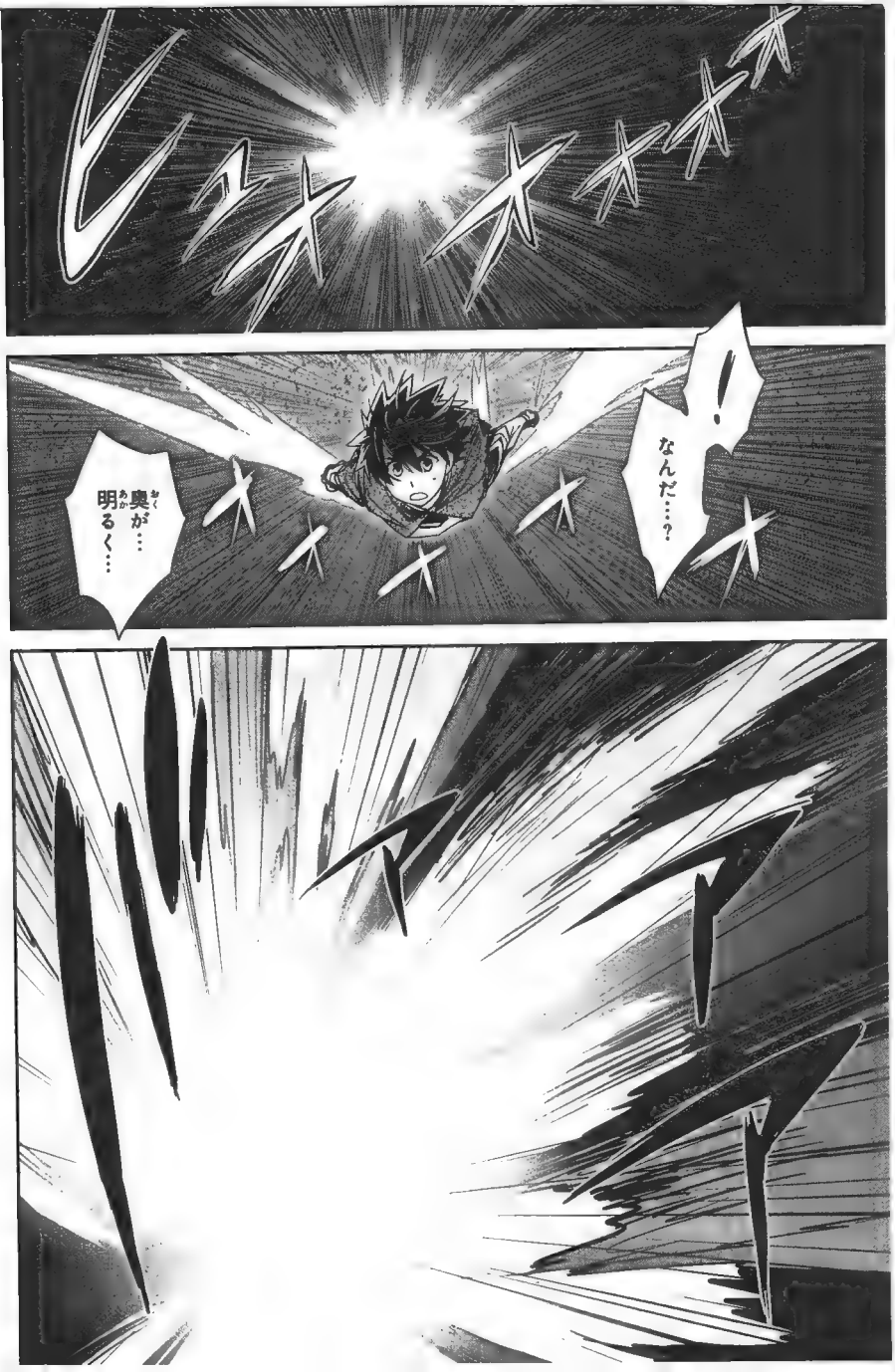
……あの
それ…
角…ですか？
そうじゃ
坊
妾の自慢の
薔薇水晶の角だ

…触っていいですか？
もちろんだ
お
おお

広域雷撃！
魔力結晶！
超高域雷撃
撃滅呪!!
ゴゴゴゴゴ
ゴゴゴゴゴ
それじゃゲートは壊れない
もっともっと
わかったよっ
あー

極大……
雷撃
殲滅!!!

ゴオオオオオオ
広域魔法では
魔法使いに
譲るけれど
狭い空間に
魔法を重ねるのは
俺の方が上だな
どうだ？
…広域破砕を
確認
飛行呪で
土煙内部に特攻を
おう！


ヒュオオオオ
なんだ…？
！
奥(おく)が…
明(あか)るく…

なんだ…この風
どこに抜けた!?
ヒュウウウ
!?
ガくん
あぶねー
いつの間にか地面に向かって飛んでた…?
ここは
……え?

碧色の太陽…
魔界…なのか？

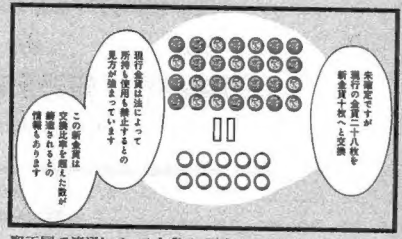
ちかせかい
斥力光球に照らされた地下世界

『魔界という
別世界』は
存在しない

第十八回

貨幣の成り立ちと「価値」の保証

物の価値を表した貨幣は取引には欠かせない。金貨などが誕生する経緯とそのシステムを見ていこう。



聖王国で流通している金貨は、国家への信用によって価値が保証された「信用貨幣」といえる。

取引の利便性を求めて誕生した金属の硬貨

貨幣が存在しなかった時代、取引は物々交換で行なわれていた。しかし、物々交換では双方が持ち寄った品物が等価値である必要があり、品物の価値が離れていると交渉が成り立たない。そこで、このような取引で不足する分を補うものとして生まれたのが、貨幣という存在なのである。

当初の貨幣には、宗教や呪術で使われる貝殻や石などのほか、穀物や家畜、布といったものが用いられた。しかし、貝や石はそれ自体に価値があるわけではなく、家畜などの場合はかさばって持ち運びが不便だったりと数々の欠点があった。そこで、砂金や金属の塊などが貨幣として用いられるようになり、さらに利便性が追及されて金貨や銀貨に代表される硬貨が登場したのである。

日本の十円玉に「10」と刻まれているように、硬貨には価値が刻印されている。同価値の硬貨は形状や金属の含有量が統一されており、枚数を数えるだけで取引ができるようになったのだ。

信用で成り立っている貨幣の価値

現在、世界で流通している貨幣は、「信用貨幣」と呼ばれるものだ。例えば一万円札は一万円の価値をもつとされているが、一万円札そのものは単なる紙の印刷物でしかない。信用貨幣が額面上の価値を発揮できるのは、政府や中央銀行が政策で価値の安定をはかり、かつ法律で価値が保証されているからなのである。

ただ、現代と違って制度が安定していない古い時代では、信用貨幣の価値も不安定になりがちであった。歴史上、金貨や銀貨のなかには、硬貨自体に貴金属としての額面上の価値をもたせたものもある。しかし、そういったものはほんの一部で、大半は硬貨自体の価値が額面の価値には及ばないものばかり。実質的には、信用貨幣に近い存在であった。このため、国家の情勢が不安定になると、一般市民が価値が変わるかも知れない貨幣の使用を嫌い、物々交換を行なうというケースも見られる。

「まおゆう」で流通する貨幣は、第18話で青年商人が言及したように、聖王国への信用で保障された信用貨幣に近いもののようだ。青年商人の言葉からは、その信用が揺らぎつつある様子がうかがえる。

青年商人は、そもそも聖王国や教会には信用など存在しないと考えているのかもしれない。

Kadokawa Comics A

角川コミックス・エース

まおゆう魔王勇者
「この我のものとなれ、勇者よ」「断る！」⑤

漫画 **石田あきら**　原作 **橙乃ままれ**　キャラクター原案 **水玉螢之丞・toi8**

2012年12月26日初版発行

発行者
井上伸一郎

発行　株式会社**角川書店**
〒102-8078 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8719(編集)
発売　株式会社**角川グループパブリッシング**
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3　電話／(03)3238-8521(営業)
http://www.kadokawa.co.jp

装幀・デザイン
沼利光(D式Graphics)

印刷 **共同印刷株式会社**　製本 **共同印刷株式会社**

初出／『月刊コンプエース』'12年10月号～12月号

本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者等の第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。
落丁・乱丁本は、ご面倒でも角川グループ受注センター読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替えいたします。
この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

2012 KADOKAWA SHOTEN, Printed in Japan

©Akira ISHIDA 2012
©2011 Touno Mamare／PUBLISHED BY ENTERBRAIN,INC.
ISBN978-4-04-120518-1 C0979